



*More For You*  
もっと、街・暮らし・笑顔のために

---

# スマートワークスタイル改革 の取組みについて

平成29年7月24日

株式会社 武蔵野銀行



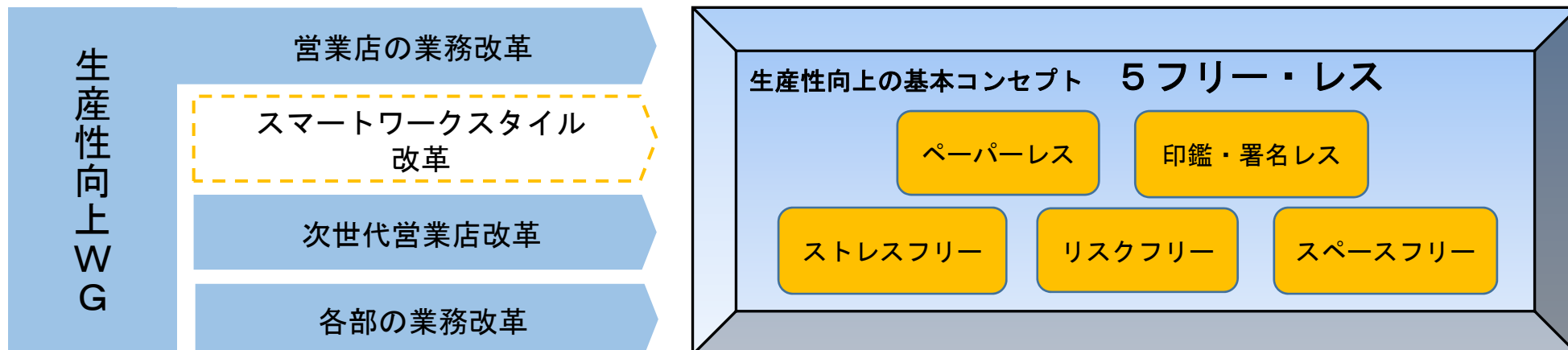
1. スマートワークスタイル改革の取組み

2. 働き方改革への展開と現在の課題



# スマートワークスタイル改革の狙い

## 【改革の態勢】



## 【取組みの背景・狙い】

資金利鞘の縮小など  
金融機関の収益力低下

人口動態や人同士の関わり方など  
マクロトレンド変化

ICT・デジタル化など  
技術革新の進展

## スマートワークスタイル改革 (2014年11月～)

### 【顧客目線の実現できる姿】

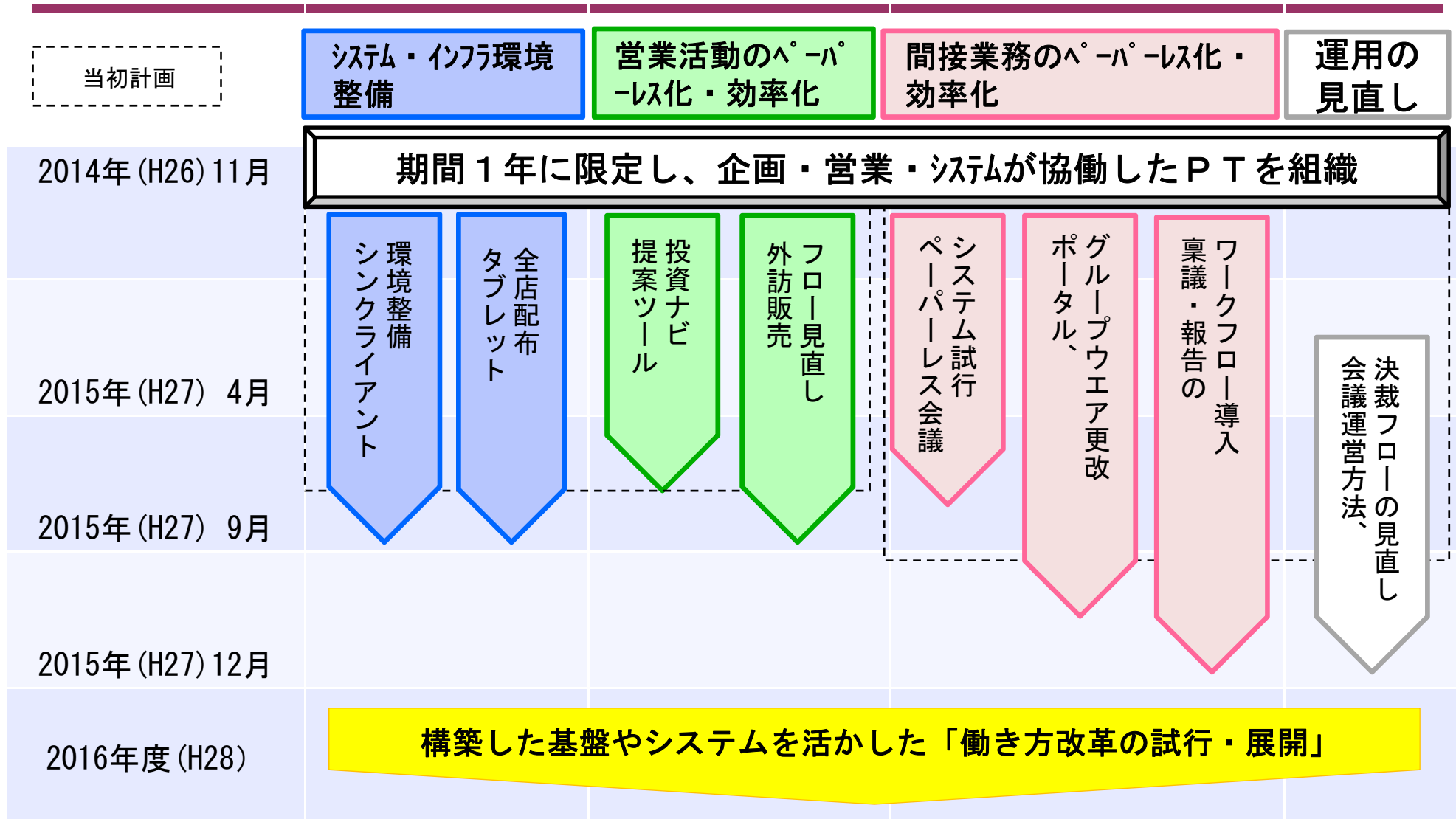
- 多様化するニーズへの迅速かつ場所を選ばない対応
- 紙での申込に伴う押印・署名・記入などが無い
- 担当者の能力に左右されないサービスの提供

### 【当行目線の実現できる姿】

- 利益押上げのツール(機会損失減少と営業時間捻出)
- 多様な働き方への対応(いつでも・どこでもアクセス)
- 共通プラットフォーム化によるICT技術への追随



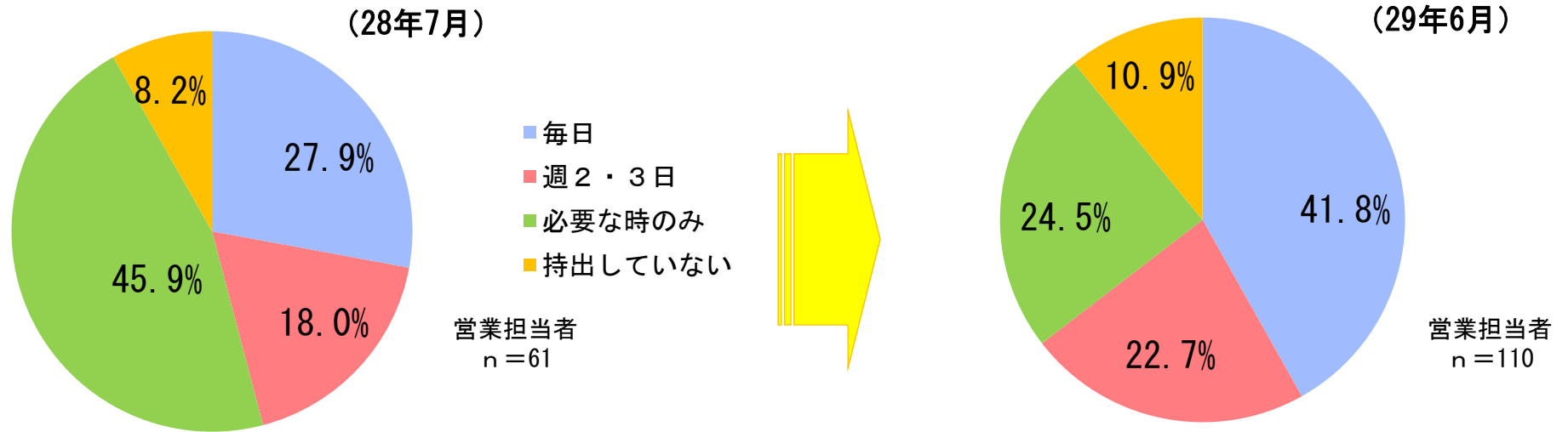
## スマートワークスタイル改革の推移





# スマートワークスタイル改革の効果

## 営業活動におけるタブレットの持出し状況



効果検証KPI	効果（前年同月比）	当初（平成28年4月）	現在（平成29年4月）
投信販売時間の削減 （アンケート結果）	▲400時間／月 （28年度投信販売件数 約2,000件／月）	—	▲12分／件
ワークフロー（電子稟議） による決裁時間の短縮	▲2.4日／件	紙の稟議回覧（26年4月） 3.7日／件	1.3日／件
紙の削減 （プリンタ印刷・コピーの件数）	▲1,145千枚／月（▲32%）	3,530千枚／月	2,385千枚／月



---

1. スマートワークスタイル改革の取組み

2. 働き方改革への展開と現在の課題



## 働き方改革への第一歩（持帰りの検討の進め方）

タブレットの持出し・持帰りにより「いつでも、どこでも」仕事や勉強ができるようにする

STEP1 試行（28/4～29/2）  
経営職層に限定して持帰りでの  
利用を可能とする

ログのシステム化と検証

STEP2 研鑽利用（29/3～現在）  
管理職層以下が自己啓発として  
利用できる（業務利用した場合  
には残業申告）

利用区分		持帰り (直行 直帰)	自己 啓発	業務
STEP 1	経営 職層	○	○	○
	管理 職層 以下	○	—	—
STEP2	経営 職層	○	○	○
	管理 職層 以下	○	○	—

### 【進め方のポイント】

- 労働局・弁護士にこまめに相談
- ステップに分けて段階的に拡大
- アンケートによるニーズの確認
- ログ等により担保する仕組み

### 今後の課題

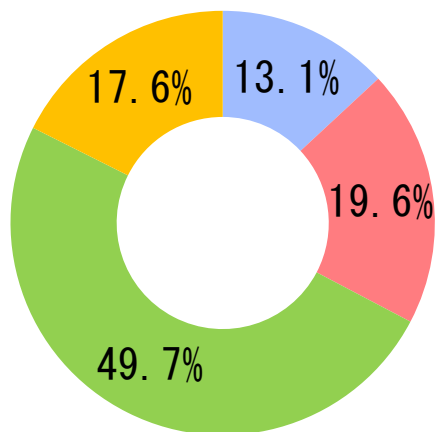
STEP3 業務利用  
管理職層以下でも希望者は業務  
としても利用できる

STEP3	経営 職層	○	○	○
	管理 職層 以下	○	○	○



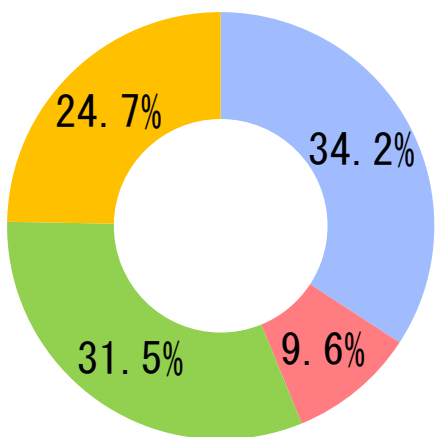
## (参考) 持帰りニーズの把握 (平成28年7月調査)

タブレットの持帰りによる自宅利用について



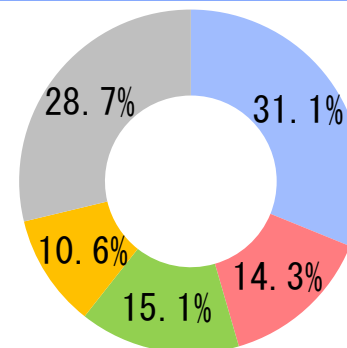
営業店  
n = 153

- 業務として利用したい
- 自己啓発として利用したい
- 業務・自己啓発の両方で利用したい
- 特に利用したくない



本部  
n = 73

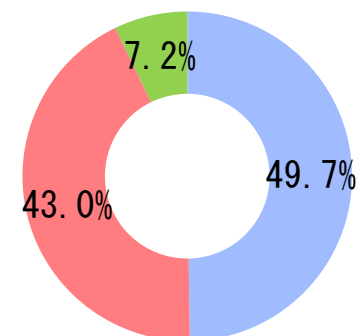
どのような時に業務利用したいか



行員  
n = 226

- 自分1人だけ残業する必要がある時
- 家庭環境などにより、働ける時間が限られる時
- 家族の病気・介護など、可能な限り自宅にいたい時
- インフルエンザなど、出勤ができない時
- その他、自宅での業務のほうが効率的な時

どのような時に自己啓発利用をしたいか



行員  
n = 226

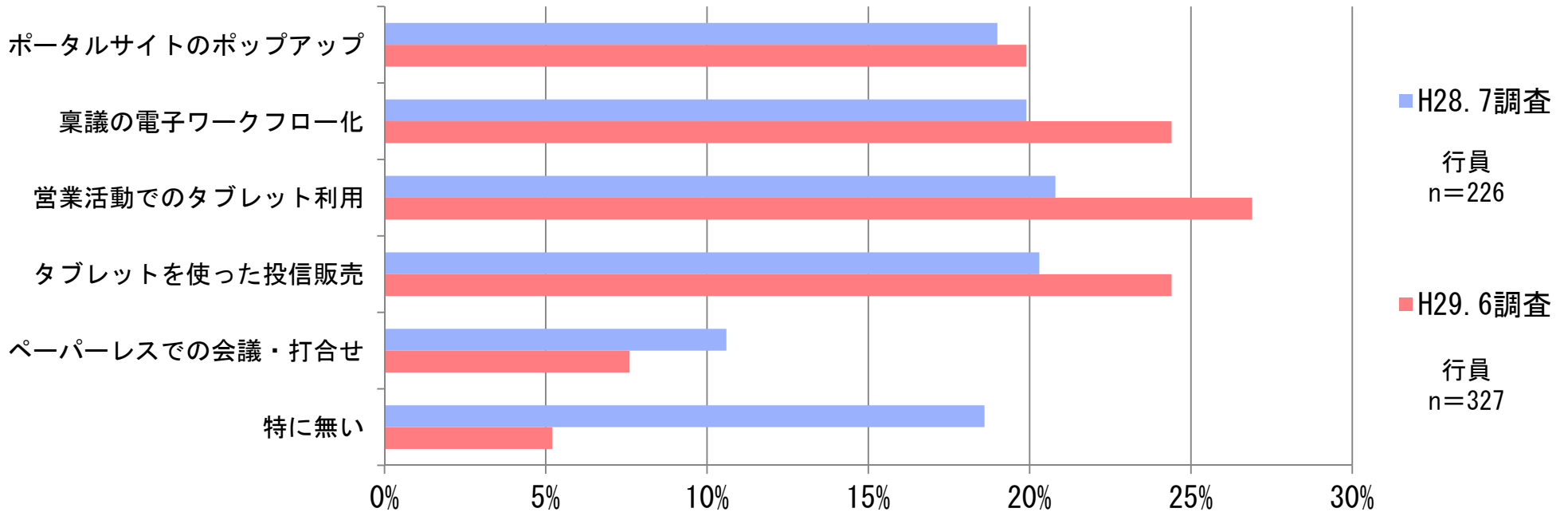
- 通達などをじっくり読みたいとき
- 商品等の知識を習得したいとき
- 自宅に設備が無く、行員用サイトが利用できないとき





## 働き方改革の進捗状況

### スマートワークスタイル改革で便利になった機能(複数回答)



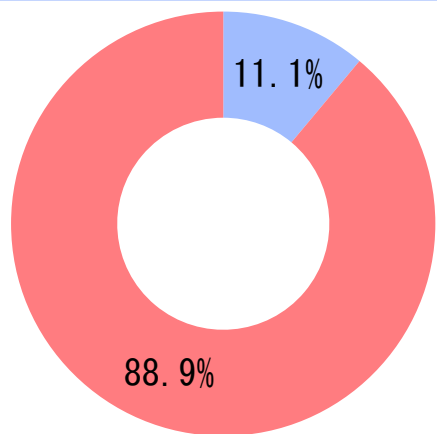
働き方（使われ方）は着実に変わりつつあり、持帰りによる自己啓発などについても徐々に浸透しつつある

効果検証KPI	時間外の業務利用		時間外の自己啓発利用	
自宅への持帰り・時間外利用 (全行員対象、累計時間)	29年4月(1~15日)	201時間	29年4月(1~15日)	212時間
	6月(1~15日)	243時間	6月(1~15日)	428時間



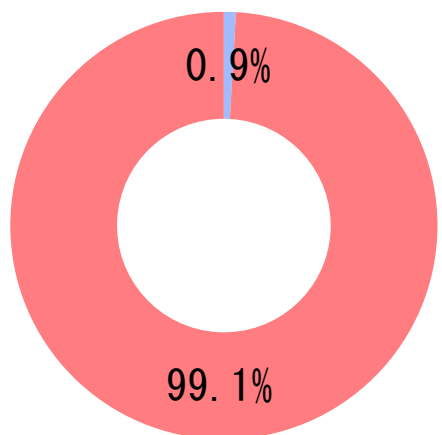
## (参考) 持帰りしない理由の把握 (平成29年6月調査)

タブレットの持帰りによる自宅利用について



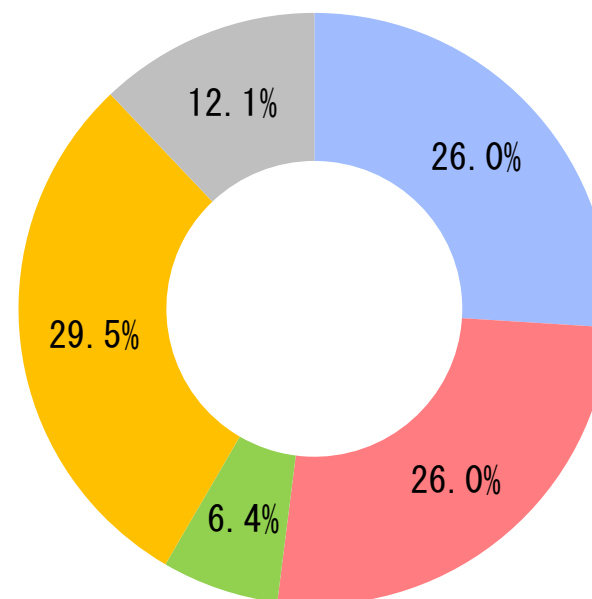
経営職層  
n = 135

- 自宅利用したことがある
- 自宅利用したことがない



管理職層以下  
n = 192

自宅利用していない理由



行員  
n = 281

- 時間内に業務が終わるから
- 自宅に仕事を持ち帰りたくないから
- (利用はしたいが) 持帰るには重たいから
- (利用はしたいが) 申請等の持帰り手続きが面倒だから
- 利用できることを知らなかった



## 働き方改革に向けた今後の課題

スマートワークスタイル改革後の課題(働き方改革への橋渡し)

持帰りでの業務利用や自己啓発の促進、障害要因解決

テレワークの実現に向けた課題整理と解決

いつでも、どこでも働ける就業形態・人事制度の検討

新本店を見据えたワークスタイル改革

- ・築47年が経過し、老朽化が進行している本店ビルを建替え(平成33年竣工予定)

<新本店ビルのコンセプト>

安全・安心

ワークスタイルの改革

地域との共通価値創造

+

ESGへの配慮



(新本店ビルイメージ)

ワークスタイル改革タスクフォース

- ・若手行員中心のタスクフォース
- ・テレワークやワークライフバランス、ダイバーシティを含むワークスタイル改革を提言
- ・新本店のレイアウト、執務環境の検討



## (参考) 武蔵野銀行の概要

*More For You*  
もっと、街・暮らし・笑顔のために



本店所在地	さいたま市大宮区桜木町 1 - 10 - 8
ホームページ	<a href="http://www.musashinobank.co.jp">http://www.musashinobank.co.jp</a>
設 立	昭和 27 年 3 月 6 日
ネットワーク	営業店舗数 96 家店 (埼玉県内 92)
総資産	44,940 億円
預金等残高	41,406 億円
貸出金残高	34,253 億円
自己資本比率	9.20% (単体)
	(平成 29 年 3 月 31 日現在)